

2020年12月

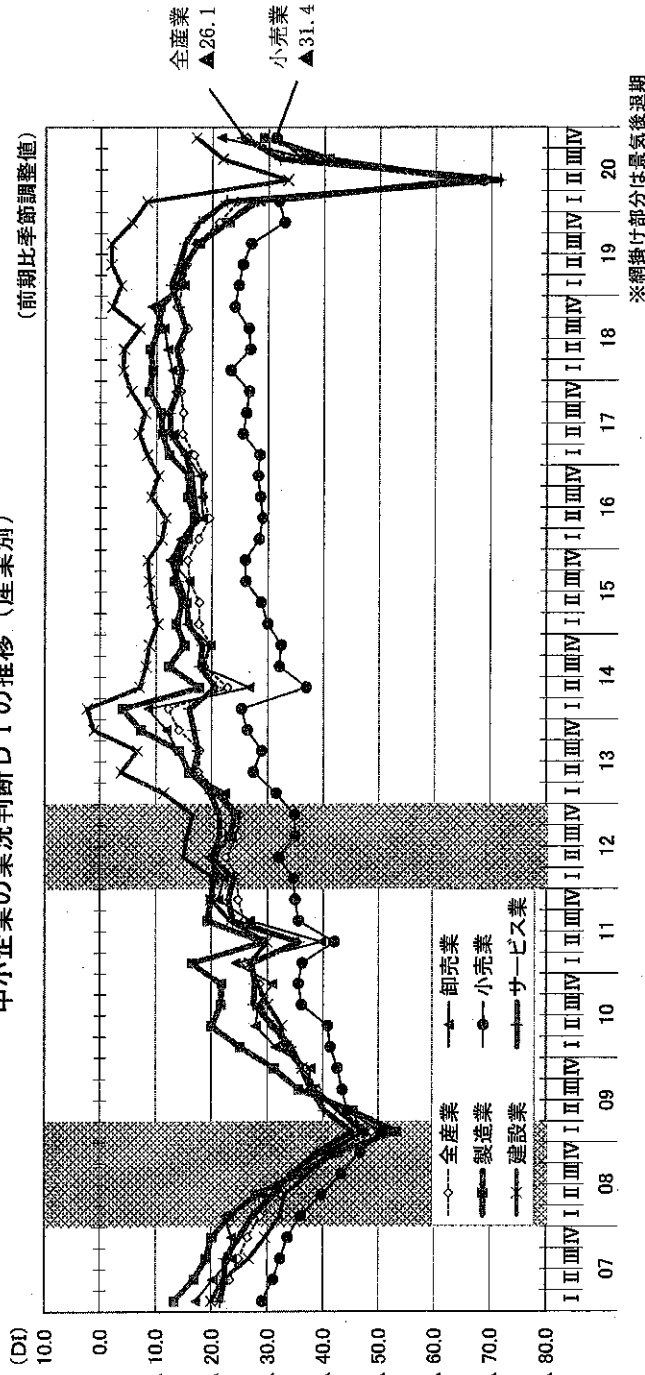
# 第162回 中小企業景況調査報告書 (2020年10-12月期) <小売業編>

※D Iとは…  
「好転」と回答した企業の割合-「悪  
化」と回答した企業の割合。D I値が  
マイナスの場合は、悪化したと回答し  
た企業の数が多いことを示す。

中小企業基盤整備機構 企画部 調査課  
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1  
TEL:03-5470-1521(ダイヤルイン)  
URL:https://www.smrj.go.jp/research\_case/research/survey/index.html

中小企業の業況判断D Iは、2期連続で上昇した。  
前期と比べて全産業の業況判断D Iは、2期連続で上昇した。(▲34.1→▲26.1)

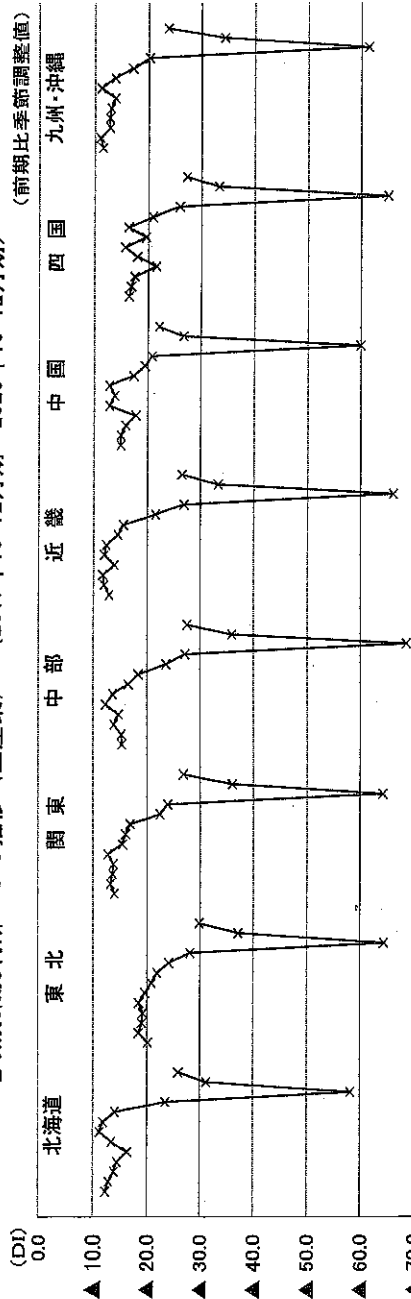
中小企業の業況判断D Iの推移 (産業別)



## <地域の業況>

九州・沖縄、関東、中部、東北、近畿、四国、北海道、中国の全ての地域でマイナス幅が縮小した。

地域別業況判断D Iの推移 (全産業) (2017年10-12月期~2020年10-12月期)

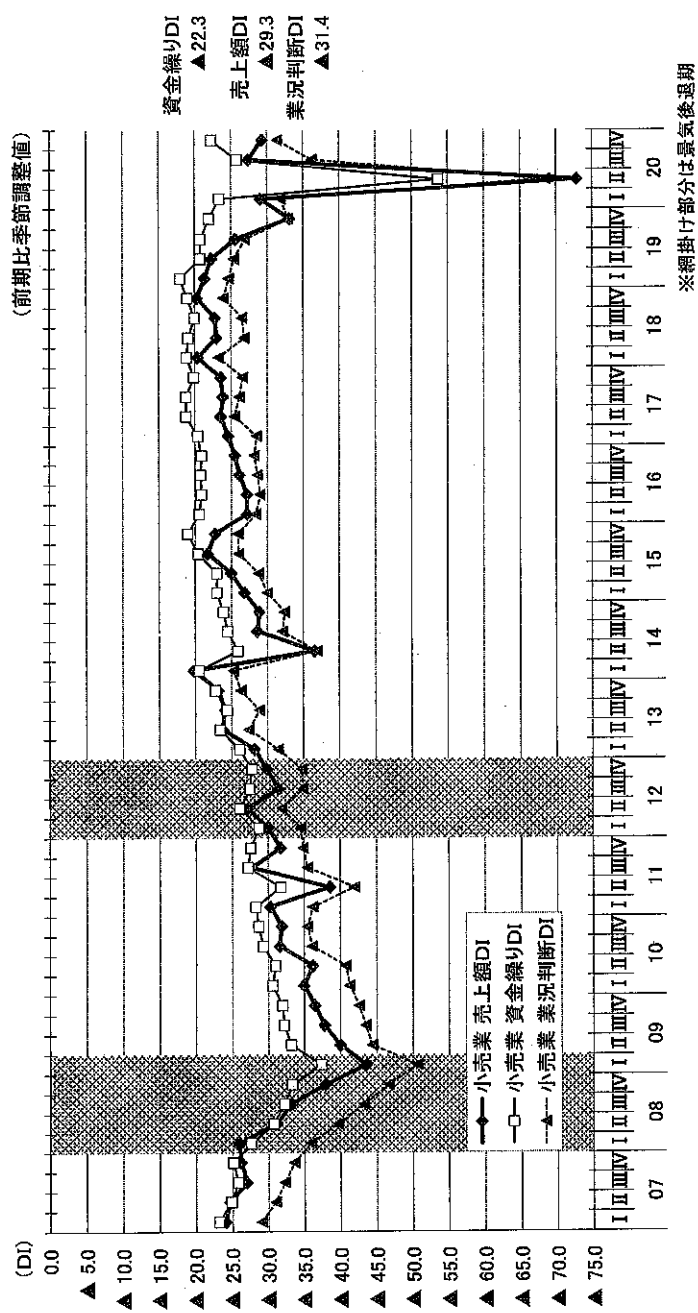


(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。  
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。  
3. 業況判断D I=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合

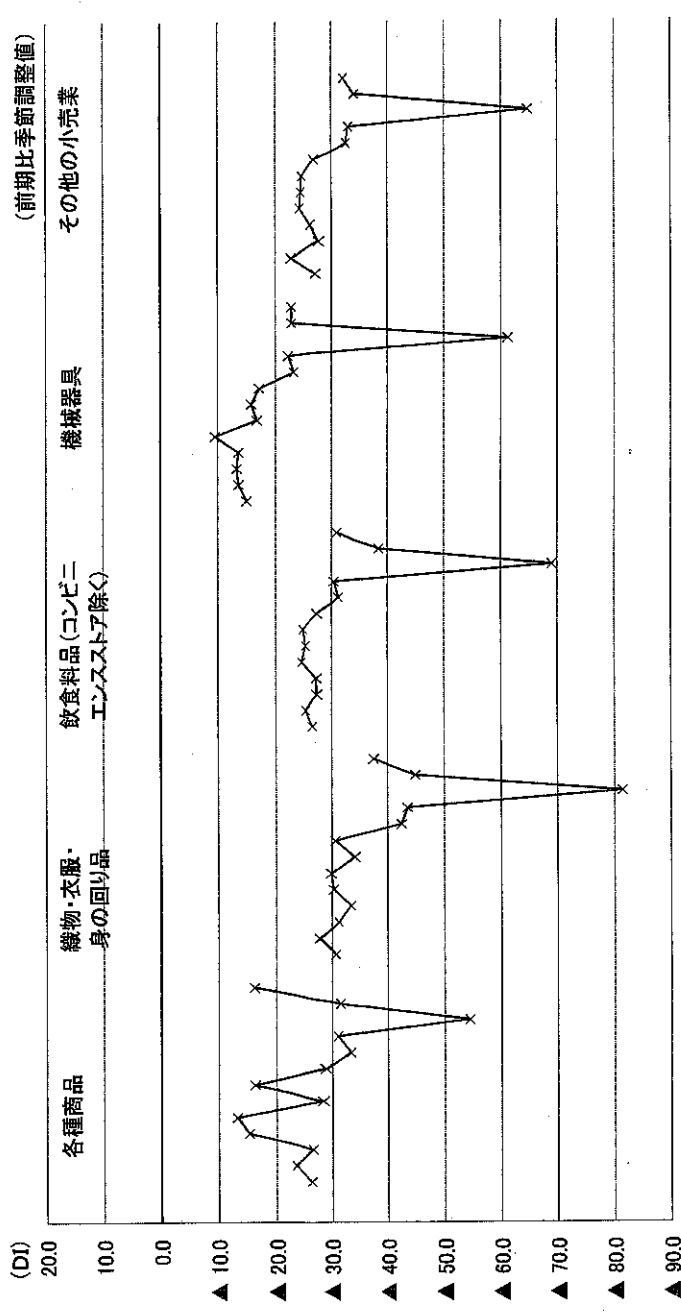
## 1. 小売業の動向

小売業の業況判断DIは、▲31.4（前期差4.8ポイント増）とマイナス幅が縮小した。また、売上額DIは▲29.3（前期差1.9ポイント減）とマイナス幅が拡大し、資金繰りDIは▲22.3（前期差3.5ポイント増）とマイナス幅が縮小した。

業種別に見ると、各種商品で▲16.2（前期差15.4ポイント増）、織物・衣服・身の回り品で▲37.4（前期差7.4ポイント増）、飲食料品（コンビニエンスストア除く）で▲30.9（前期差7.4ポイント増）、その他の小売業で▲32.2（前期差2.1ポイント増）とマイナス幅が縮小し、機械器具で▲22.8（前期差0.0ポイント）と横ばいであった。



小売業 業種別 業況判断DI（2017年10-12月期～2020年10-12月期）



## 2. 小売業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、小売業全体で15.1%（前期差0.8ポイント増）と増加した。

（単位：％）

	2019年 10-12月期	2020年 1-3月期	2020年 4-6月期	2020年 7-9月期	2020年 10-12月期
各種商品	18.3	16.4	11.9	26.5	30.0
織物・衣服・身の回り品	7.4	6.4	5.4	9.6	11.0
飲食料品 (コンビニエンスストア除く)	13.7	8.8	9.4	13.6	14.3
機械器具	15.4	15.2	10.3	15.8	16.3
その他の小売業	15.8	11.9	10.3	16.3	16.4
小売業計	13.6	10.3	9.2	14.3	15.1

## 3. 小売業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様に「需要の停滞」が1位にあげられており、「消費者ニーズの変化への対応」が2位となり、「大・中型店の進出による競争の激化」が3位となった。

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (10-12月期)	需要の停滞 (26.6%)	消費者ニーズの 変化への対応 (17.0%)	大・中型店の進出 による競争の激化 (11.7%)	購買力の他地域へ の流出 (9.1%)	販売単価の低下・ 上昇難 (4.1%)
前期 (7-9月期)	需要の停滞 (29.5%)	消費者ニーズの 変化への対応 (14.7%)	大・中型店の進出 による競争の激化 (9.0%)	購買力の他地域へ の流出 (7.8%)	販売単価の低下・ 上昇難 (4.0%)

（1位にあげた企業の割合）

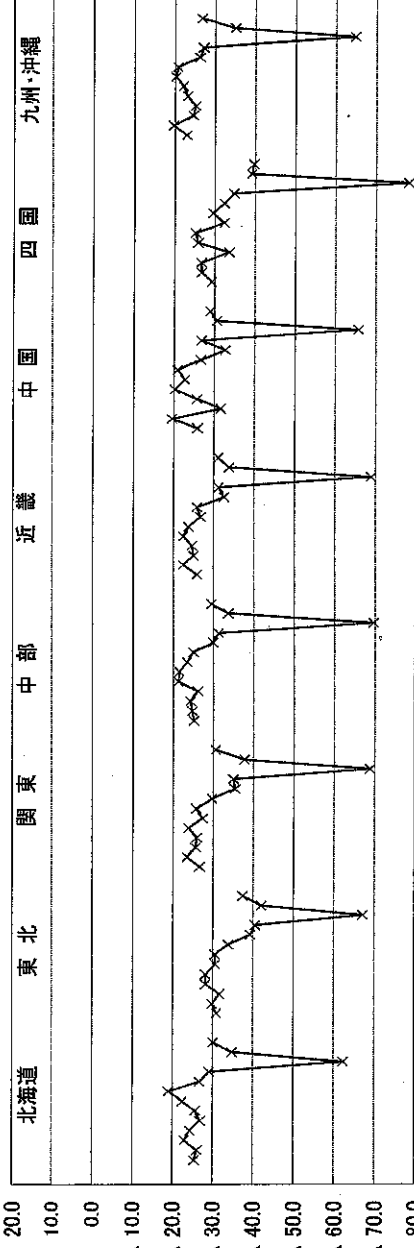
## 4. 小売業の地域別業況判断D I

地域別に見ると、九州・沖縄、関東、北海道、東北、中部、近畿、中国でマイナス幅が縮小し、四国でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断D Iの推移

小売業

(DI) (2017年10-12月期～2020年10-12月期の動き)

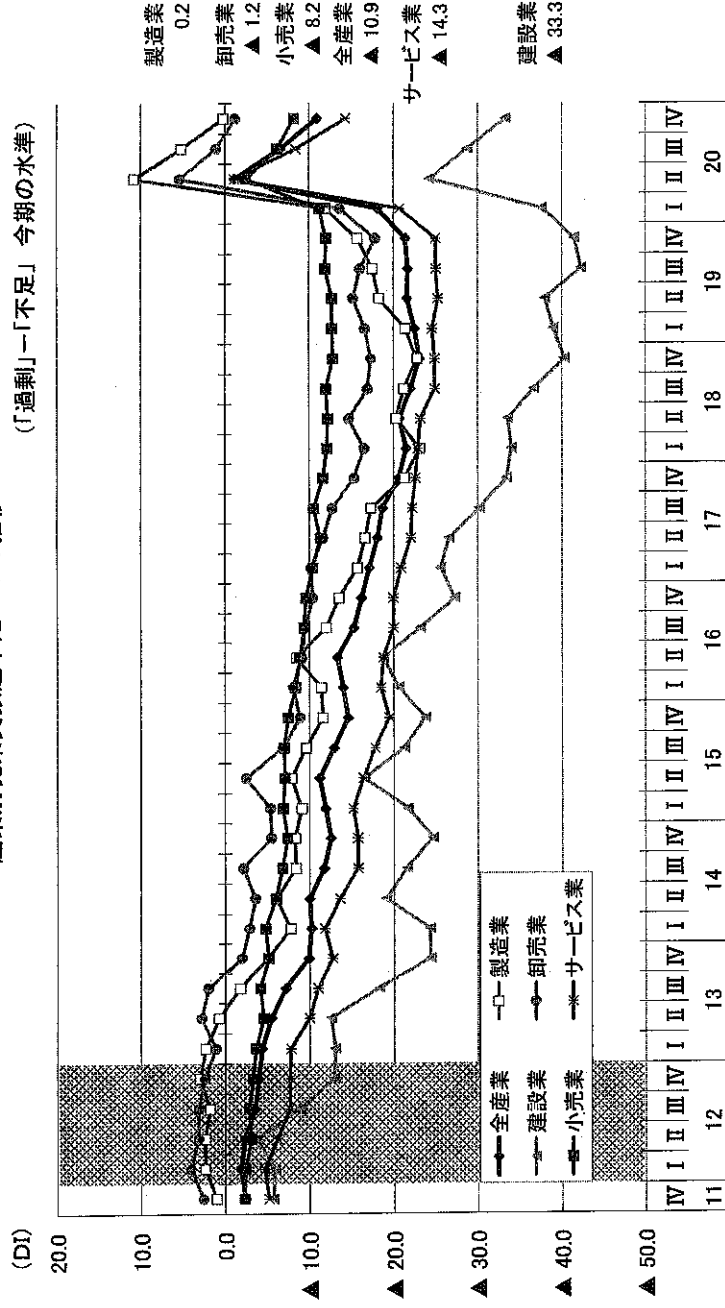


(注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。  
2. 関東には新潟、長野、山梨、群馬の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。  
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合

## 5. 小売業の従業員数過不足D I（今期の水準）の推移について

従業員数過不足D I（「過剰」－「不足」、今期の水準）は、（前期▲6.2→）▲8.2（前期差2.0ポイント減）と2期連続して不足感が強まった。

産業別従業員数過不足D Iの推移



### 【調査対象企業のコメント】

- ・ コロナより、不漁の影響が大きく、昨年同期と比較し3割程減少となる見込み。（十勝・釧路・根室）
- ・ メーカーの仕入単価の上昇により、粗利を確保するのが難しくなった。また、メーカーに在庫がなく納期が希望に添わず、販売を逃す事があった。（福島）
- ・ 既存のお客様の高齢化による客数の減少が著しく、新規客の獲得が追いつかない。小売路面店は、新しいビジネスモデルの創出が急務だと考えている。（山梨）
- ・ コロナ禍による新しい生活と働き方により、時間短縮が不安であったが、売上は順調に推移している。定休日を年間12日増やしたが社員のやる気が上昇し、売上・利益とも増。今後も期待が持てる。（愛知）
- ・ 従来の販売スタイルでは、この状況の中では売上が維持して行く事が困難になってきている。従って早急に販売先を新規に獲得すると同時に、新しいチャンネルを開拓しなければならぬ状況にある。（京都）
- ・ GoTo施策により人の外出が多くなり、また、秋の紅葉シーズンで天候にも恵まれ、売り上げは上昇しました。設備の改修や人材の確保について課題が山積しています。（広島）
- ・ 客数・客層は変わりないが、商品券など配布されているので低価格の商品を探しに来る人が多くなりました。が、客が納得する価格のものを置いてないので、少し品揃えを反省する点もありました。（徳島）
- ・ 10～12月期は、年間を通じて一番売上の上がる時期に加えて、地域の取り組みや商品券などで少しずつ客足が戻ってきたように感じます。逆に冬である来期は、毎年の低迷の時期とコロナ禍なのであまり期待はできません。（大分）

### 【調査要領】

- (1) 調査時点：2020年11月15日時点
- (2) 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,912のうち有効回答数18,231（有効回答率96.4%）（産業別の動向は、小売業の有効回答数4,448を集計したものの。）